



なぜ Bitcoin なのか？

希少性・分散・流動性・制度化が
融合する唯一のアセット

唯一無二のオリジンと揺るぎない実績

ビットコインは世界初の暗号資産として2009年に誕生し、以来17年以上、稼働率99.98%という高い安定性で止まることなく稼働を続けています。

その歴史と実績は他の暗号資産に比類なく、いまや「デジタル資産の基軸」として、揺るぎない信頼を築いています。



世界最大の分散ネットワークが生む堅牢性

ビットコインは、世界中に分散した膨大な数のマイナーとノードによって支えられています。

その結果、ハッキングや改ざん、停止に対する耐性は他の暗号資産を凌駕し、比類なきセキュリティと安定性を誇ります。

多くの暗号資産はネットワーク規模においてBTCには及ばず、グローバルな信頼基盤という点で、ビットコインは唯一無二の存在です。

※マイナー

取引を検証し、新たなブロックを生成する参加者

※ノード

ブロックチェーンのデータを保持・検証するサーバや端末



2,100万枚 — 設計で担保された希少性

ビットコインは、発行上限が2,100万枚とプロトコルで厳格に定められた唯一の暗号資産です。

この設計により、供給が無制限に拡大することではなく、インフレに強い「デジタルゴールド」としての希少価値を備えています。

他の多くの暗号資産が供給量の上限を持たない中で、長期的な価値保存という観点において、BTCは際立った存在となっています。



※デジタルゴールド
希少価値があり、インフレに左右されない「金」と同様の価値保存資産

※アルトコイン＝オルトコイン
alternative coin（オルタナティブコイン）の略で、ビットコイン以外のすべての暗号資産の総称

比類なき流動性とアクセス性

ビットコインは、世界中の取引所で取り扱われ、24時間取引量が圧倒的です。CoinMarketCap によれば、全暗号資産市場におけるBTC の取引占有率は約37.5%に達します。

さらに、時価総額では約2.25兆ドルで、市場シェアはおよそ57.5%に達し、暗号資産市場の基軸として不動の地位を築いています。

他の通貨と比べても、流動性・アクセス可能性・市場規模のすべてにおいて、唯一無二の存在です。

暗号資産・流動性トップ5（時価総額およびシェア）

1. BTC : \$2.248 兆 (57.51%)
2. ETH : \$0.552 兆 (14.11%)
3. XRP : \$0.179 兆 (4.575%)
4. USDT : \$0.167 兆 (4.279%)
5. BNB : \$0.121 兆 (3.093%)

データ出典 (CoinMarketCap / SlickCharts 等)



ETF承認と機関投資家の信頼

米国で初めて現物ETFが承認された暗号資産はBTCです。
世界の機関投資家や上場企業がバランスシートに組み入れる際も、その中心はBTC。
いまや「デジタル資産のグローバル・スタンダード」としての地位を確立しています。



※ETF：Exchange Traded Fund（取引所で取引される投資信託）の略で、特定の指数（日経平均株価など）に連動することを目指す投資信託です。

出典：ForbesJapanより転載
(<https://forbesjapan.com/articles/detail/68466>)

アルトコインにはない、BTCの普遍的価値

多くのアルトコインは、新しい技術やユースケースを試す実験的なプロジェクトです。革新的なものもある一方で、淘汰や消滅のリスクが高いのも事実です。

その点、ビットコインは「価値の保存」と「送金」という根源的な役割に特化しており、役割がぶれることはありません。このシンプルさと安定性こそが、長期的な信頼の源泉であり、BTCを暗号資産の基軸たらしめているのです。

※アルトコイン市場では、透明性の低いプロジェクトや運営体制が不明瞭なものも多く、詐欺的被害のリスクがあります。さらに流動性が低いため、大口投資家の売却行為によって価格が急落する事例も少なくありません。



半減期がもたらす希少性と価格上昇（1 / 4）

ビットコインには、約4年ごとに訪れる「半減期」という希少化イベントが存在します。

このとき、マイニング報酬（新たに市場に供給されるBTCの量）は半分に減少し、供給が計画的に抑制されます。

この供給ショックは価格に大きな影響を与えられていると考えられており、過去の事例では、半減期の数か月後から1年程度の期間で価格が大きく上昇する傾向が確認されています。

※半減期

マイナーが取引処理によって得る報酬（ブロック報酬）が約4年ごとに半分になる仕組み。これにより供給量の伸びが抑制され、希少性が高まります



半減期がもたらす希少性と価格上昇（2 / 4）

BTCは、これまでの半減期ごとに劇的な価格上昇を遂げてきました。

- 2012年：半減期を境に、わずか1年で約80倍の価格上昇
- 2016年：3,000ドル前後から、約2万ドルへと急伸
- 2020年：9,000ドルから6万ドル超へ到達
- 2024年：半減期直前の約63,000ドルから10万ドル突破（史上最高値更新）

歴史が示すように、半減期は投資家にとって大きな転機となってきました。次回の**2028年の半減期**においても、過去同様の力強い上昇が期待されています。BTCを保有・運用することは、この「半減期サイクル」という特別な投資機会に参加することを意味します。

そして、ただBTCを保有するだけではなく、Linux Lending のサービスを通じてレンディング運用を行えば、利息を得ながらこの成長サイクルに参加することが可能です。

BTCを「持つ」だけでなく「増やす」——
それが、Linux Lendingがご提供する新しい投資スタイルです。



半減期がもたらす希少性と価格上昇（3 / 4）



上記のグラフは、これまでの半減期のタイミングを示したものです。
ご覧のとおり、半減期を迎えるごとに価格は大きく上昇してきました。

- 2016年の半減期後：価格は600万円超へ
- 2020年の半減期後：さらに1,000万円超を突破

歴史が物語るように、半減期はビットコインの希少性を高め、価格上昇の原動力となってきました。

次回の半減期においても、この「成長サイクル」に市場の注目が集まっています。

半減期がもたらす希少性と価格上昇（4 / 4）

半減期は将来の価格上昇を保証するものではありません。
しかし、供給量が抑制される一方で、需要が世界的に拡大しているという構図は、長期投資家にとって極めて重要な判断材料となっています。

歴史的に、半減期は希少性を高め、市場における価格上昇の契機となってきました。

この「供給が減り、需要が増すことで価値が上がりやすい設計」はビットコイン特有の仕組みであり、いまま世界中の投資家が注目し続けています。





なぜ Bitcoin なのか？

最後までご覧いただき、誠にありがとうございました。ぜひ弊社サイトにて、より詳しいサービス内容をご確認ください。



ただいまキャンペーン実施中！
BTCを増やすならLinxLending

© Linx Lending